

第15回がん患者の抑うつと不安に関する研究会

- 開催のご案内 -

拝啓

時下、先生におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、「第15回がん患者の抑うつと不安に関する研究会」を下記要領にて開催することとなりましたのでご案内申し上げます。

今回は、1)緩和薬物療法認定薬剤師のお立場からがん患者さんに対する薬剤師の関わり方、2)薬物療法以外の精神療法やチーム医療をテーマにご講演いただきます。

諸事ご多用とは存じますが、何卒ご出席賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

日時 平成27年 9月17日 (木) 18:30~19:30

会場 メルパルク広島 6階 平成2-3

〒730-0011 広島県広島市中区基町6-36 TEL:082-222-8501

プログラム

座長 国立がん研究センター 支持療法開発センター
広島大学病院 緩和ケア部門

内富 庸介 先生
小早川 誠 先生

第一部

がん患者さんに対する薬剤師の関わり方 鎮痛補助薬の効果的な使用方法

演者 市立芦屋病院 薬剤科部長 緩和薬物療法認定薬剤師

岡本 禎晃 先生

第二部

がん患者さんへの「非」薬物療法

演者 慶應義塾大学医学部精神・神経科／緩和ケアセンター 専任講師

藤澤 大介 先生

研究会終了後、情報交換会を予定しております。

共催

がん患者の抑うつと不安に関する研究会
Meiji Seika ファルマ株式会社

第一部

がん患者さんに対する薬剤師の関わり方 鎮痛補助薬の効果的な使用方法

市立芦屋病院 薬剤科部長 緩和薬物療法認定薬剤師 岡本 禎晃

がん疼痛治療の第一選択はオピオイド製剤であるが、オピオイド製剤だけでは十分に緩和できない痛みもある。その痛みに対していわゆる鎮痛補助薬を使用するが、エビデンスが十分でないことから選択に迷うことはよくある。鎮痛補助薬の特徴を理解し、分類することでよりの確な選択が可能となると思われる。本講演がその手がかりになれば幸いである。

第二部

がん患者さんへの「非」薬物療法

慶應義塾大学医学部精神・神経科／緩和ケアセンター 専任講師 藤澤 大介

薬をじょうずに使える・じょうずに勧められる医療者とは、薬以外のアドバイスをたくさん持っている医療者である、と個人的に考えています。そういうわけで、この講演では、がん患者さんの精神症状(うつ、不安、不眠など)や身体症状(疼痛、倦怠感など)に役立ちうる、「薬を使わない」アプローチにあえてしばってお話します。処方に加える一言、看護支援、薬剤指導などのヒントになれば幸いです。

